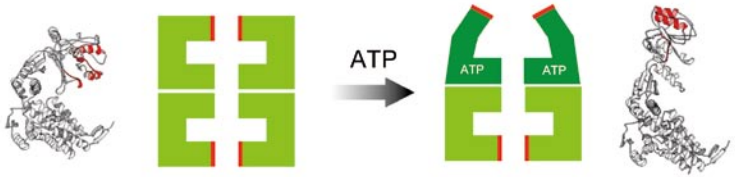
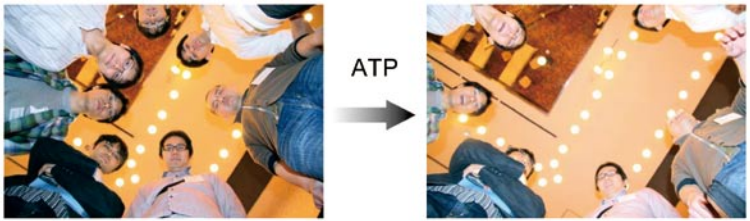
「リアル」蛋白質社会　その2：シャペロニンの「輪」

沖縄班会議の写真はラボのN君に大部分撮ってもらった．帰ってきて，写真一覧を見ていると「何だこれは?」と最初思ったのが以下の写真．輪になっていて7人いるな,･･･と少し間があって，シャペロニンGroELのつもりということが理解できた．ということで，第1号の人間フォールディングの続編をお届けしたい．





GroELは7つのサブユニットからなるリング構造で，写真はリングの内部から上部を覗くという視点だ．各サブユニットは腰が曲がっている状態からATPがあると起き上がるというわけである．ただ，写真では腰の折れ具合がイマイチなのと，起き上がりもバラバラで「正の協同性」が実現されていない･･･(GroESが無いから?)．

ちなみに7人は一番上から時計回りに，丹羽，横川，野島，寿野，鮫島，北村，飯塚である．みなシャペロニンを研究している(一人を除く)のでまさに「シャペロニンの輪」．それにしても，リング内に入った基質タンパク質はすんなり外に脱出できるのか気になる視点である．

（田口　英樹）